

忍者の魅力に惹かれ、県外から移住した2人の方にお話を聞きました。

忍務 その2 多くの人を惹きつける 甲賀流忍者の魅力を探れ



ひいおじいさんが忍者だった
忍者の末裔
渡辺俊経さんにお聞き
知っておきたい忍者のひと
お話を聞きました。

忍者の末裔である甲賀忍術研究会の渡辺俊経さんに甲賀流忍者の基礎知識や忍者を使った観光振興についてお話を聞きました。

甲賀流忍者って何者？

時代によって違いますが、忍者が最も活躍した時代で言えば、「甲賀流忍者」は、甲賀武士がものすごいことをやってのけたときと呼ばれた名前と言えます。

1487年に近江の守護であった六角高頼の勢力拡大に対し、足利幕府9代將軍義尚自ら軍を率いて近江に攻め入りました(鉤陣の陣)。開戦後すぐに甲賀の山中に逃げ込んだ六角勢を甲賀武士がグリラ戦や夜襲をかけて守り、圧倒的多数の幕府軍を撃破しました。後に、故郷に戻った幕府軍の武士たちが「甲賀にはすごい忍び(忍者)がいる」と語り、「甲賀流忍者」の名が世に広まったと言われています。

甲賀流忍者は 何がすごい？

甲賀武士たちは大名に仕えるのではなく、「甲賀郡中惣」という自治組織を営み、お互いが寄り合って自治を営んでいました。つまり指揮官がいません。その中で機敏に行動ができるのは、一人ひとりの能力が高く、攻撃するのも、逃げるのも自分で判断する力があつたと考えられます。その場その場で自己判断ができる、それが甲賀流忍者のすごいところです。



甲賀忍術研究会 渡辺俊経さん

忍者を使った観光振興のためには 楽しさと甲賀市にしかないリアルな忍者で観光客に感動を

今後、甲賀市が忍者を使って観光を振興していくには、甲賀市にしかないものを積極的に出していく必要があります。



▲飯道山の護摩修行 ▲甲賀流忍者が修行をしたと伝わる岩尾山の奇岩

甲賀市はかつて本物の忍者が暮らしていたまちです。忍者の修験の行場である飯道山や岩尾山、今も市内に残る城跡など、忍者が実際にいた痕跡が残っています。後づけの忍者屋敷は日本各地にあっても、これらは甲賀市にしかありません。これらの甲賀市にしかないもの、「本物」「リアル」な部分をもっと使っていきべきだと思います。

しかし、楽しさがないと人は集まってきません。まずは楽しそうであること、そして訪れてみると、リアルな甲賀流忍者の姿から、何かに気づかされ、感動させられるような施設があるといいと思います。

インタビュー



くノ一になるため山口県から移住 甲賀市を盛り上げ、多くの人に甲賀流忍者の魅力を発信したい

2017年の甲賀の里忍術村主催「ミスくノ一オーディション」で準グランプリになり、昨

年の4月に地元山口県から甲賀市にやってきました。このオーディションは甲賀市に住んでいる伯母から薦められました。着物など和風のもが好きで、また体を動かすことも大好きなので、惹かれるものがあり、受けることを決めました。ちょうどその頃、「忍者」と「信楽焼」が日本遺産に認定され、その事に深い縁を感じました。何か私にもっと「忍者」のPRができないか、甲賀市を盛り上げたい、と思うようになり、短大では保育を専攻し、保育士や幼稚園教諭の資格も取得していたので、卒業後の進路にはとても悩みました。人生は一度きり、今の自分にチャレンジしてみようと、甲賀市で忍者のPR活動をする方向を選択しました。

現在、月に数回ですが、忍術村で観光に来られた方への施設案内や、あいこムこうかの番組でのアシスタント、市内のイベントへの参加などの活動をしています。お声がかかれば積極的に活動しますので、皆さんからのオファーをお待ちしています。

これからの東京オリンピックや大阪万博など、海外から多くの人が集まるイベントに向けて、もっと甲賀市を盛り上げ、多くの方に甲賀流忍者の魅力を発信していきたいです。観光バスが何台もやってきて、いつも観光客でにぎわうようなまちなかになったらいいなと思います。

くノ一 Kanaminさん



▲甲賀流忍者大祭で司会を務める Kanaminさん

Instagramで忍者の魅力を発信中 @kunoichi.kanami

インタビュー ミステリアスな忍者に惹かれ移住 実際に忍者が住んでいたまち甲賀だからこそ 学べることもある

甲賀の里忍術村スタッフ 木村亮太さん



もともと歴史、なかでも忍者に興味があり、忍者についてもっと知りたいと思いい、忍術村に連絡して、13年ほど前に甲賀市に来ました。

甲賀市は実際に忍者が住んでいた地域であるからこそ学べることに、自分が知らないだけで、身近なところにも関係する場所があるかもしれない。そういうことを知るとより一層忍者に興味湧きます。

これまで本などで忍者について勉強していましたが、実際に忍術村で働くことで、忍者の見え方が大きく変わりました。知れば知るほど、どれが本当か分からず、そんなミステリアスな部分がおもしろく、惹かれ、もっと知りたいと思っています。

最近では、外国からの観光客も増えていて、なかには、日本人以上に忍者の知識を持ち、リアルな忍者像を求めて、忍術村を訪れる方も多くいます。